

佳作

やわづら一冊

福島県 会津若松市立二箕小学校二年 佐々木 菜羽

わたしは年中さんのとき、ひっこしをして新しい
ほいく園にかようことになりました。新しいほいく
園では、みんながもうなかよしで、わたしだけが一
人ぼっちみたいにかんじました。

おひるのじかんもあそぶじかんも、知らない人ば
かりで、こころの中がずっとさみしくてかなしかっ
たです。おむかえのじかんになると、みんなはわら
いながらともだちとあそんでいるのに、わたしは一
人であそんでいました。

ある日、おむかえにきたママがわたしを見つけた
とき、とてもかなしい顔をしていました。ママの
なしそうな顔を見て、わたしもこころがきゆうっと
しました。その日による、ママとおふとんの中でこ
っそりなきました。なにも話さなかったけど、ママ
とぎゆうしながら、いっぱいいっぱいなきました。
そんなまい日がつづく中、ある日、すべりだいの

前にいたわたしに、一人の男の子がやさしく声をか
けてくれました。

「いっしょにあそぼう。」

わたしはすこしびっくりしたけれど、そのやさし
いことばにあんしんして、

「うん。」

とこたえました。

その日から、気がつけばおともだちもすこしずつ
ふえて、まい日がわくわくするものになりました。
一人じゃないって、こんなにもこころづよいことな
んだと知りました。

今では、あのときのさみしさやふあんだった気も
ちも、大切な思い出になっています。ママといっし
よにないたよること、そして、やさしく声をかけ
てくれた男の子のこと。それは、わたしに一人じゃ
ないよと教えてくれた、こころのたからものです。

これからは、わたしもさみしそうなおともだちが
いたら、声をかけてあげたいと思います。